

子どもの発表を中心とした継承日本語オンライン授業
—ワンシムニ日本語教室の授業実践報告—
井口祐子(長崎外国語大学・ワンシムニ日本語教室)

本報告は、韓国ソウル特別市ソンドン区多文化家庭センター日本語サークル「ワンシムニ日本語教室」(以降、本教室と表記)における、継承日本語オンライン授業実践を紹介する。本教室の構成員は10家庭で、在住地域は韓国ソウル近辺、カンウォンド、九州であり、授業対象者は2025年4月時点で年中(現地年長)～中学1年までの13名である。2024年度までは保護者が持ち回りでオンライン授業を行っていたが授業準備・運営が負担であることを受け、2025年度より発表者が通年講師としてオンライン授業を担当する体制を試みている。なお、本教室の年度の活動は4月初旬から11月末までを1年とする。

オンライン授業概要は次の通りである。年中(現地年長)から中学1年生までの子どもを対象に、前半クラス(幼稚園児～小学3・4年)・後半クラス(小学5年～中学)に分けて約30分ずつ実施している。クラス分けの基準線を小学4年としているが、子どもの希望によって両クラス、または自分の学齢と異なるクラスを受講することもできるようになっている。

授業内容は子どもの関心が深いテーマを主題とした発表を中心に、関連する学習を通して思考を深める構成を試みている。前半クラスの目標は「子どもたちの好きなことやものをきっかけに、身の回りや家の中などの日本語や表記に繋げること」とし、後半クラスの目標は「子どもたちの発表から生活社会(日本や韓国の様々な地域)や、世界的な現象に視野を広げること」、「その中で語彙や表記について関心を持ち、自らの思考を深めること」とした。発表は自分がクラスメイトに詳しく話せるテーマを自由に選出させた。時間は3～5分程度、発表形式は自由である。発表の内容や準備は各家庭で行い、実際の発表では実物を紹介しながら発表する子や、ICTを活用したスライド資料を作成してくる子などが見られた。

授業実践の事例として6月27日の前半クラスと後半クラスを紹介したい。参加者は、前半クラス小学2年(現地小1)～小学5年の5名、後半クラス小学5年～小学6年の5名だった。

前半クラスは「魚料理」の発表を軸に授業を構成した。子どもの発表と感想の後、SDGs(秋山2020、公益財団法人日本ユニセフ協会)より「目標2: 飢餓をゼロに」と、「目標14: 海の豊かさを守ろう」について考え、自分ができることは何かを具体的に考え意見交換を行った。目標2では食べられる量にすること、残さないこと、捨てないことなどの意見が出た。目標14では海洋ゴミの問題や、海の生物の健康などに視点を向けた意見が見られた。最後に、制作活動として料理レシピを参考に折り紙や画用紙で魚料理を作る活動を行った。海の生物と食育を身近なものにまとめられたのではないかと考える。

後半クラスは「旧日本空軍パイロット・菅野直」の発表を聞き、感想を述べた後で、自身のキャリアやライフプランを考える授業を行った。プリントを用いて①今の自分、②3年後の展望、③将来の展望、④多言語多文化で生きる自分の可能性について考える活動(上野 2003参照)を行った。多国語話者であることなど自分自身の良さを再認識する時間となったのではないかと考える。また保護者から、家庭ではしにくい進路の話ができ、よい機会になったという感想を得た。

全体を通して、子どもたちからは、自分の好きなことやものを話すときの生き生きとした様子や、様々なツールを駆使し魅力を伝えようとする様子が見られた。

参考文献

秋山宏次朗監修・バウンド著(2020)『こどもSDGs—なぜSDGsが必要なのかわかる本—』カンゼン
上野千鶴子(2003)『女の子におくる なりたい自分になれる本』学陽書房
公益財団法人日本ユニセフ協会「持続可能な世界への第一歩SDGs CLUB SDGs17の目標」
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/17goals/>(閲覧日2025年6月27日)